



## 庄原地域連携センター長着任挨拶

今年度から庄原地域連携センター長を担当いたします橋本温と申します。

私の専門とする水質衛生学の一つの分野として上水道があります。現在の人口減少社会の中で上水道をいかに維持し、人々の健康と利便性を護ってゆくのが大きな課題となっております。上水道の問題のみならず、庄原キャンパスの位置する備北-庄原地域は、人口減少やそれに付随する様々な課題への取り組みが必要不可欠になってきております。

一方で、広島県・備北-庄原地域は、人、物、豊かな自然など様々な資源、ポテンシャルを有しております。また、庄原キャンパス(生物資源科学部)にも、広く生命・環境・地域資源をはじめ、理系文系の様々な分野に関する多くの研究者や全国から集ったそれらを学ぶ若い学生達がおられます。地域のポテンシャルと大学のシーズ、この両者をうまくつなげることで、地域や大学の持つ可能性を引き出し、地域とともに大学の発展を目指してゆきたいと思っております。

地域と大学をつなぐ庄原地域連携センター担当の教員・職員と共に、地域と大学の架け橋となれるよう、あちこちと走り回って行きたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



### 「比婆牛」パンフレット・アプリの制作

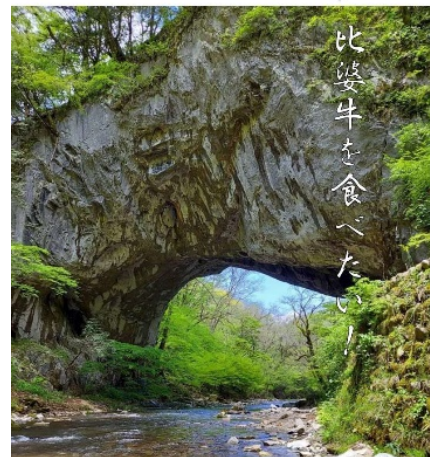
「いきいきキャンパスライフ・プロジェクト 2022」で採択された「比婆牛 PR プロジェクト」に携わる庄原キャンパス学生9名が、地元のブランド和牛「比婆牛」を扱う飲食店を取材し、その魅力やこだわりをまとめた冊子を作成しました。更に、冊子を無料で閲覧できるアプリも開発し、幅広い層に対して「比婆牛」の魅力を発信しています。

冊子とアプリでは、庄原市内で比婆牛を扱う飲食店が紹介されています。



アプリ「比婆牛プロジェクト」QRコード

大学生が選ぶ 庄原グルメ  
**比婆牛**



比婆牛 PR パンフレット

(<https://www.pu-hiroshima.ac.jp/uploaded/attachment/20528.pdf>)

## 人工光植物工場とアクアポニックス見学会

3月9日に本学庄原キャンパスにて人工光植物工場とアクアポニックス見学会を開催しました。第1部は一般より4名、第2部は西条農業高等学校の生徒9名と先生2名にご参加いただきました。

フィールド科学教育研究センター長の甲村浩之教授によるミニ講義では、庄原キャンパスにあるフィールド科学教育研究センターや今回見学した人工光植物工場についての説明がありました。植物工場は、気候変動に左右されず、最小限のエネルギーで最大限の収穫を得ることができるため食糧危機へ対応するなど、SDGsのゴール「9. 産業と技術革新の基盤をつくろう」「13. 気候変動に具体的な対策を」に関連すると説明がありました。



人工光植物工場

人工光植物工場とアクアポニックスの見学会は、それらを研究テーマとしている生物資源科学部地域資源開発学科の谷垣悠介講師が案内をしました。植物工場では、栽培方法の工夫だけでなく、電気代や肥料代などのコストについても検討し、確実に利益が出るような栽培が必要であると谷垣講師から説明がありました。

本学の植物工場で作ったリーフレタスやエディブルフラワーなどは、広島三越と広島そごうのデパ地下やJAとれたて元気市などで販売されています。

アクアポニックスは、魚の排泄物を利用して作物を生産する手法で、本学ではナマズを使って新しく始めた研究です。こちらは、谷垣講師が中心となって取り組んでいる研究であり、作物生産に加え、備北地域での新たな名物の創造に取り組んでいます。



アクアポニックス

## 公開講座

### 「小学生のための理科実験教室」

7月24日に本学庄原キャンパスにて庄原市立山内小学校の5・6年生を招いて、「小学生のための理科実験教室～山内小学校スペシャル～」を開講しました。生物資源科学部生命環境学科の柳下真由子助教が「酸っぱい、苦い、を調べてみよう！」をテーマに実験講座を行いました。身近な食品の酸っぱいレベルをイメージし、紫キャベツをすりつぶして指示薬を作成し、できた指示薬で、実際に酸っぱい度合いを比べてみました。

ダイヤル式pH測定器と専用試薬を使った本格的な実験では、先ほどの紫キャベツの指示薬の結果から、「レモンはピンク色になるかも」などと予想を立てながら取り組んでいました。グループごとにイメージした酸っぱさと、実際の指示薬で得られた結果をグラフにまとめたり、紫キャベツの指示薬で染めた高分子吸収剤（ぷよぷよボール）を使った実験を行ったり、とても楽しそうに活動していました。



### 庄原市民公開講座

「食を総合的に見てみよう」をテーマに、庄原市教育委員会と本学の共催で庄原市民公開講座（前期）を6月30日、7月7日、14日、21日の日程で実施しました。延べ68人の参加があり、3回以上講座を受講された19名の方には修了証書をお渡ししました。



回	テーマ	講師
1	地域食材には夢がある	地域資源開発学科 准教授 吉野 智之
2	食用油脂の色々	地域資源開発学科 准教授 山本 幸弘
3	食のおいしさと安全性	地域資源開発学科 准教授 馬淵 良太
4	食品副産物のリサイクル	地域資源開発学科 教授 原田 浩幸

後期は、「平和と戦争」をテーマに11月2日、10日、30日の日程で開催します。最近の国際情勢では「平和」や「戦争」という言葉が身近に聞こえてきます。これまで、人々は、どのように「平和」や「戦争」をとらえてきたのでしょうか？中世・近世期の日本の歴史に残る軍記、第2次世界大戦後の原爆文学から考えてみます。それらを踏まえ、昨今の東アジア情勢についても解説します。

回	テ ー マ	講 師
1	軍記から考える戦争と平和	地域創生学部 准教授 目黒 将史
2	文学から考えるグローバルヒバクシャ	広島大学大学院 人間社会科学研究科 教授 川口 隆行
3	東アジア情勢と台湾有事の可能性	地域基盤研究機構 教授 上水流 久彦

### 大学祭開催について

庄原キャンパスで10月28日、29日に第34回「白楊祭」が開催されます。テーマは、「庄原を知ると世界が平和に!？」です。

広島キャンパスの第19回「紫苑祭」と、三原キャンパスの第28回「浮城祭」も、「白楊祭」と同時期に開催予定です。

本年度は学外からもご参加いただける見込みです。ぜひお越し下さい。



2022年度庄原キャンパス白楊祭

### 編集後記

地域連携センター報第38号をお届けします。本号では、今年度から新たに着任した橋本庄原地域連携センター長の挨拶、庄原キャンパスでの学生の活動、見学会、公開講座を紹介しています。

新型コロナウイルス感染拡大防止の制約も緩和され、学内にも活気が戻って参りました。また、地域での活動を再開し、地域の皆様と協働で連携活動を推進して参りますので、引き続きご支援とご協力をお願いいたします。

### 編集発行

県立広島大学地域基盤研究機構地域連携センター  
〒734-8558 広島県広島市南区宇品東1丁目1番71号  
電話 (082) 251-9534 / E-mail: renkei@pu-hiroshima.ac.jp  
<https://www.pu-hiroshima.ac.jp/soshiki/renkei/>

### 各キャンパス問い合わせ先

地域基盤研究機構庄原地域連携センター [本号編集担当]  
〒727-0023 広島県庄原市七塚町 5562 番地  
電話 (0824) 74-1000 / E-mail: gakujutu@pu-hiroshima.ac.jp

地域基盤研究機構三原地域連携センター  
〒723-0053 広島県三原市学園町 1 番 1 号  
電話 (0848) 60-1120 / E-mail: mrenkei@pu-hiroshima.ac.jp